

付録 インターネットによる調査結果

調査方法と調査期間	66
1 アンケート調査用ホームページの作成	66
2 調査期間	66
回答状況	66
1 期間別回答者数	66
2 回答者の属性	67
3 自由記述	67
結果の概要	68
1 全体の選択傾向	68
2 求める人間像	69
3 自由記述	69
4 自由記述の抜粋	70

調査方法と調査期間

1 アンケート調査用ホームページの作成

調査方法としては、アンケート調査用のホームページを作成し、既にある奈良県教育懇談会のホームページからリンクを設定した。

調査の実施については、県の広報に奈良県教育懇談会のホームページのアドレスを記載し、回答者は、奈良県教育懇談会のホームページにアクセスした後、アンケート調査用のホームページに移動し、回答するように設計した。

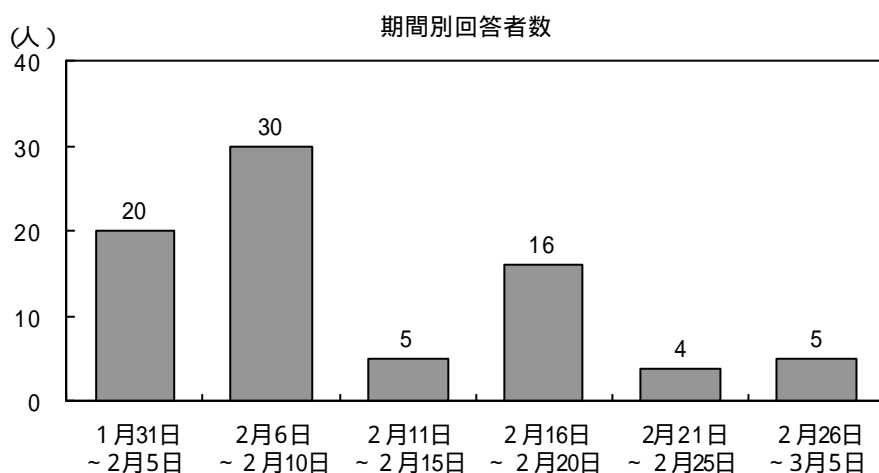
2 調査期間

平成 14 年 1 月 31 日（木）～ 3 月 5 日（火）

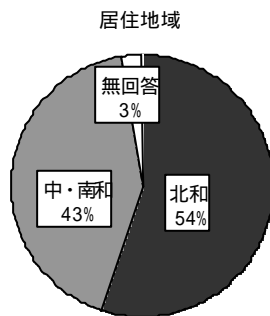
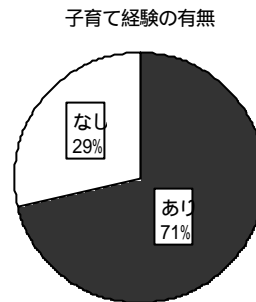
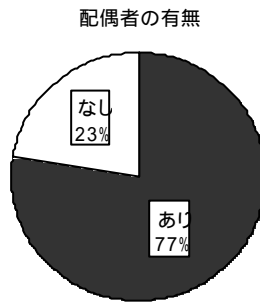
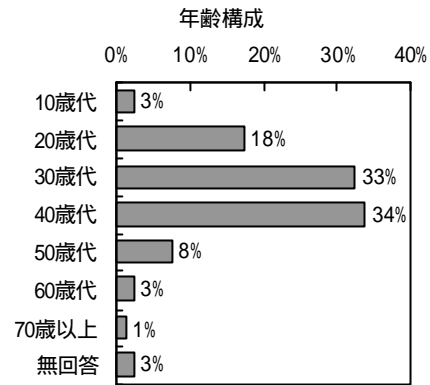
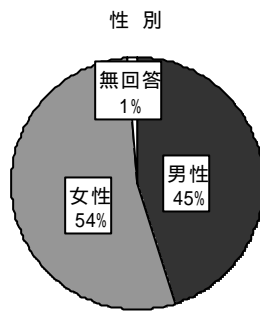
回答状況

1 期間別回答者数

- ・回答者数は 80 人であった。
- ・期間別の回答状況は以下のとおりである。調査開始当初の回答者数は多かったが、次第に減少した。



2 回答者の属性



各属性別回答者数

性別		回答数	構成比
性	男性	36	45%
	女性	43	54%
	無回答	1	1%
合計		80	100%

配偶者の有無		回答数	構成比
配	あり	62	78%
	なし	18	23%
者合計		80	100%

年齢構成		回答数	構成比
年	10歳代	2	3%
	20歳代	14	18%
	30歳代	26	33%
	40歳代	27	34%
	50歳代	6	8%
	60歳代	2	3%
	70歳以上	1	1%
	無回答	2	3%
合計		80	100%

子育て経験の有無		回答数	構成比
子	あり	57	71%
	なし	23	29%
育て合計		80	100%

居住地域		回答数	構成比
居	北和	44	55%
	中・南和	34	43%
	無回答	2	3%
地域合計		80	100%

集計結果はすべて、小数第1位を四捨五入しており、構成比の合計が100%にならない場合がある。

3 自由記述（問29） 66人（有効回答数の83%）

結果の概要

1 全体の選択傾向

下表は全体の選択率を示している。

問6（ボランティアの参加意向）と問7（授業の理解と問題行動）を除く25の設問では、いずれも「賛成」及び「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成側の率が非常に高く、この結果は郵送によるアンケートと同じ傾向である。

なかでも賛成が過半数を超える項目は、25問中10問であった。

回 答 一 覧

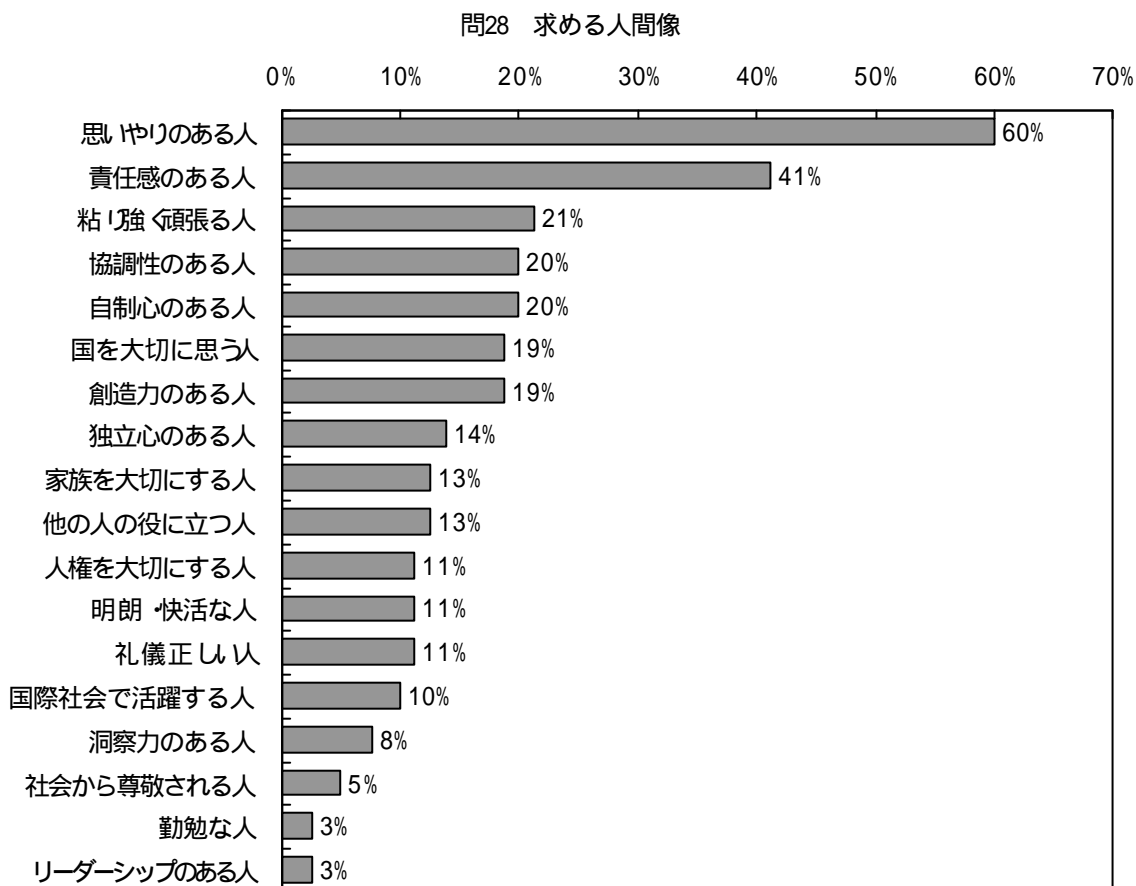
	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	無回答	合 計	
	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	回答数	構成比
問1 父親学・母親学マニュアルの作成	39%	41%	19%	1%	0%	80	100%
問2 公立幼稚園における社会性の育成	59%	33%	8%	1%	0%	80	100%
問3 幼保連携に向けた「就学前教育指針」の作成	44%	39%	14%	4%	0%	80	100%
問4 公立幼稚園における地域の子育て支援の推進	50%	33%	11%	5%	1%	80	100%
問5 地域の子育て支援ボランティア	46%	44%	5%	5%	0%	80	100%
問6 公立幼稚園の依頼によるボランティア参加意向	20%	58%		23%	0%	80	100%
問7 授業の理解と問題行動	21%	38%	21%	19%	1%	80	100%
問8 小学校低学年での国語・算数の完全習得	70%	23%	6%	1%	0%	80	100%
問9 中学校第1学年での英語の完全習得	46%	34%	16%	4%	0%	80	100%
問10 到達目標の明確化	43%	36%	13%	9%	0%	80	100%
問11 奈良県内一斉学力調査の実施	48%	26%	14%	13%	0%	80	100%
問12 習熟度別指導	60%	28%	10%	1%	1%	80	100%
問13 補習授業の徹底	48%	35%	14%	4%	0%	80	100%
問14 小学校高学年での学級担任制の弾力化	78%	16%	5%	1%	0%	80	100%
問15 校長による教育目標の策定と公表	58%	30%	6%	6%	0%	80	100%
問16 校長による自己評価の公表	44%	33%	14%	10%	0%	80	100%
問17 教員による教育目標の策定と公表	45%	35%	14%	6%	0%	80	100%
問18 教員による自己評価の公表	38%	33%	19%	10%	1%	80	100%
問19 外部からの学校の評価	51%	33%	6%	9%	1%	80	100%
問20 高校の独自入試など	38%	31%	15%	16%	0%	80	100%
問21 教員採用試験の充実	81%	16%	3%	0%	0%	80	100%
問22 授業の常時公開	48%	35%	11%	6%	0%	80	100%
問23 子どもの意見の取り入れ	38%	35%	19%	9%	0%	80	100%
問24 教員の待遇	43%	33%	16%	9%	0%	80	100%
問25 指導力不足教員の処遇	69%	21%	9%	1%	0%	80	100%
問26 教員研修の充実	66%	20%	8%	6%	0%	80	100%
問27 地域人材の活用	63%	33%	3%	3%	0%	80	100%

問6は他の設問と異なり、選択肢が「参加したい」、「機会があれば参加したい」、「参加したくない」の3つであるので、それぞれ「賛成」、「どちらかといえば賛成」、「反対」のところにその比率を記入している。そのため、「どちらかといえば反対」は空欄となっている。集計結果はすべて、少数第1位を四捨五入しており、構成比の合計が100%にならない場合がある。

問6以外の各設問には選択肢が4つあり、各選択肢に偏りなく回答された場合は、25%ずつ選択されることになる。今回の調査では、統計的にみて約35%以上の選択率であれば期待値よりも高く、約15%以下の選択率であれば期待値よりも低いと判断できる。また、賛成側と反対側に分けた場合は50%ずつ選択されることになり、約61%以上の選択率であれば期待値よりも高く、約39%以下の選択率であれば期待値よりも低いと判断できる。

2 求める人間像

問 28 は、今の子ども達が将来どのような人間になってほしいかを、18 項目の中から 3 つ選択する設問である。「思いやりのある人」が極めて多く、「責任感のある人」、「粘り強く頑張る人」と続く。郵送によるアンケートとの比較では、第 3 位以下の順位が少し異なる。



複数回答（3つだけ選択）のため、集計結果の合計は 100 % を超える。

3 自由記述

- ・記述率 83 %（80 人中 66 人記述）

インターネットによるアンケートでは、回答者が能動的にアクセスして回答する方法であるため、当然の結果ではあるが、記述率は 83 % と高かった。

4 自由記述の抜粋

今回の調査で、本設問に回答いただいた 66 人のご意見・ご提言の中から、郵送法による自由記述の大項目によって分類し、紙面の都合上項目別に抜粋した。

(1) 育てたい人間像

○問題は、「勉強ができない子ども」ではなく「勉強をしない子ども」なのではないかと思う。子どものわがままな欲求に大人が合わせるのではなく、大人の社会に子どもが適応していける教育改革であってほしい。(男性,30歳)

○奈良県は、日本でも有数の大学進学率が高い県ですが、そのために小さい頃より習い事が多く、本当に余裕のある人間関係を体験しているのか考えさせられます。(女性,43歳)

(2) 家庭教育または幼児教育

○自分の小学生の頃と比べて、授業時間中に席でじっとしてられない子どもが大変多いのに驚き、情けなく思っている。家庭でのしつけが期待できない昨今、幼稚園や保育所では強制的にでも社会性を養う教育が必要だと思う。放任主義の親からは批判が出るかもしれないが、その子の一生に関わる大事なことだと思うので、是非進めてほしい。(女性,35歳)

○問4(公立幼稚園における地域の子育て支援の推進)のように、一つの公立機関に多様な機能を持たせるのは無理があると思う。一人の人間や特定の職員集団に無理を押しつけるのは良くないと思う(男性,30歳)。

(3) 学校教育

○アンケートの設問には、ほとんど賛成としました。授業数の減少やゆとり教育は子どもを駄目にするばかりで、文部省の方針など当てになりません。現在の学校教育は衰退するばかりで、親として非常に危機を感じています。奈良県独自の教育改革を早急に進めてください。この急速に変動し激動する時代を生き抜くのに一番大切なのは基礎学力で、読み書き、計算力、そして現在では英語力です。また、創造性というのは模倣から生まれるもので、基礎なくして創造性は養われません。だから、小学校からきっちりと基礎を叩き込むことが必要です。単にゆとりを与えるだけでは、創造性を育てることはできません。(女性,33歳)

○小学校低学年の教育如何で将来の学力が大きく左右されるので、小学校低学年については20人程度の少人数で、算数・国語の基礎学力に時間をかけて教えていただけるシステムを望みます。小学校高学年では勉強の方法、つまり自分自身で勉強していける指導をお願いしたい。(男性,46歳)

○習熟度別学習については、子どもの学習に対する理解を助けるという観点からは賛

成であるが、それが子どもに対するマイナスの評価にならないような工夫が絶対に必要であると考えます。(男性,43歳)

○県立高校における不登校傾向にある生徒に対する指導が、十分だとは思わない。また、小・中学校で不登校であった生徒に対する柔軟な姿勢の高校を、県内に是非作ってほしい。(女性,46歳)

(4) 教育行政

○私はある県立高校を最近卒業しましたが、本当に疲れ切っている先生達を何人も見てきました。ある先生は、「どんなに疲れ切っている、学校で生徒と関わっていたら疲れも吹き飛ばすくらい楽しい」とおっしゃっていましたが、やはり先生の体は心配でした。会議とか授業以外の仕事も多くて、放課後も忙しく走り回りながらも、時間を見つけて私たちの話を聞いてくださいました。ましてや、小学校の教員は学級担任が1人でほぼ全教科を教えるわけですから、多分、高校の教員以上に時間的なゆとりはないと思います。子ども達にゆとり教育をと叫ばれていますが、教師の方にも、時間のゆとりが必要だと思います。そのためには、教員の数を増やすしかないと思います。(女性,19歳)

○来年度から絶対評価が取り入れられるということですが、高校入試に向けての各教科の評価が一個人の先生一人に預けられることのないよう、県全体で公平な評価になるような制度を心から希望しております。例年の内申制度だと、点数で評価しやすい5教科より音楽や美術等の教科が3倍のウエイトで見るというのは、教師と生徒の歪んだ関係を生み出していると思います。この改善として、年に数回ほど県統一実力テストのようなもので平均点を出し、それを入学の際の評価にする方がよほど公平で明快です。(女性,42歳)

○40人のクラスの子どもは27人のクラスの子どもに比べて教育条件にとっても較差がある気がします。手を挙げてもなかなか当たらないし、順番が回ってくるのも時間がかかるし、子どもも先生もゆとりを感じられない。公共工事よりも、もっと教育にお金をかけてほしいです。(女性,48歳)

○今年4月からの公立小・中・高校週休二日制に伴い、各自治体・私立学校の対応の差が大きく出ると思います。大学受験・高校受験を考えると、4月からの学習指導要領では公立は明らかに不安です。いくら土曜日が休みになっても他の平日が7時間授業になったり土曜日が塾でつぶれたりすることも考えられます。もっと考えて改革してほしい。(女性,37歳)

(5) 教員

○私は他市の教員の海外研修に添乗員として度々同行しますが、年々、先生方の一般常識のなさには驚かされます。多分教員の方々の世界がすごく狭いのと企業のように

な厳しさがなければいけないかと感じます。子ども達に教えるためには、一人の人間としての常識や社会の常識を持ち、広い見識を持った先生でないといけないと思います。企業での先生の研修はとても良いことだと思います。3ヶ月等の短期ではなく、1年間位の長期に研修されるのが良いと思います。(女性,43歳)

○教師が学校外での経験をできるだけ積むことは賛成です。学生の中に経験することは知れているので、そのまま教師になっても足りないことばかりです。社会経験を積むことをもっと奨励してほしいと思います。教員採用試験の時、社会人経験をメリットにできるようなシステムが必要ではないかと思います。(女性,30歳)

○指導力不足教員に対する処置については、指導力不足の判定基準をはっきりと示す必要がある。一部の人による評価ではなく、誰が見てもその人が指導力不足であると納得できるものにしないと、上司に迎合するだけの教師を作ることになる危険性がある。また、教師を企業で研修させることについては、何を目的で企業に研修させるのかをはっきりする必要がある。企業は営利団体であり、利益のみを追求するものだから、基本的に一人一人の人間を大切にし人権を尊重する人間を育成していく上では、企業の営利性は教育には向いていないと考える。この辺りをしっかり考えてほしい。(男性,43歳)

○教師の採用の仕方に問題があると思います。教師は勉強ができるだけでは勤まらない職業だと思うので、ペーパーテストはあまり当てにならないのではないのでしょうか。勉強ができる人には、できない人の気持ちは理解しにくいと思うので、成績優秀な人よりも、そうでない人の方が教えるのは上手だと思います。面接による人物重視の採用をした方が良いと思います。特に、子どもが好きな明るい人の採用を期待します。(女性,39歳)

○今、教育に関して、教師の熱意が伝わらない。もっと子どもに接して体当たりでぶつかってほしい。子どもが意見を言っても決まりだからと逃げていては子どもの気持ちは離れてしまいます。もっと子どもの気持ちを研修する場もつくり、卒業しても、学校に足が向くくらいの学校を目指してほしい。小学校、中学校と、子どもの成長に重要な時期に、良い先生に会うことが、子どもの将来を大きく左右することを考えると、適正でない教師は再度教育するべきです。(女性,44歳)

○親や生徒に学校を選択できる自由を与え、学校教育にも少しばかりの競争原理が取り入れられるシステムを期待します。競争原理のシステムは、やり甲斐をなくした教員を再生し、教員としてプロフェッショナルを目指していくためにも必要です。(男性,46歳)

○学校や教員を批判や評価の対象にするのは反対です。特に、子どもに評価させることは危険です。子どもは人格が十分に発達しないうちから「自分が勉強しないのは

先生や学校のせいだ」と思ったりして、益々自己反省の心や責任感・忍耐力を欠いていってしまうと思う。子どもに自分自身の立場を勘違いさせないようにだけはしてほしい。

極端に問題のある教師は処罰すればよいが、大半の善良な教師にまで一様に足かせをつけるようなことは、逆に教育が後退すると思う。学校や教員を正確に評価する第三者はあり得るだろうか。教育活動の評価は多様な側面があり、単純に「生徒や保護者の利益」や「企業社会の論理」等の観点で判断するのは危険である。(男性,30歳)

(6) 教育改革

○アンケートの設問の練り上げた教育改革の内容を、教育に関わる県民各々が念頭に置き、協力して行動できる改革になることを期待しています。(女性,26歳)

○今は、教員も親も忙しい時代だと思います。改革といっても、それを考える時間、みんなが集まって、議論・検討する時間が必要になってきますが、教員があまり忙しくなり過ぎると心の余裕や肝心の子どもを見る目がおろそかになってくるのではないかと懸念しています。何から始めるのが優先順位をつけ、できることから一つずつ解決していかないと、どれも中途半端では時間の無駄だと思います。(女性,36歳)

○凶悪犯罪が低年齢化するなど、危機的な状態となっている。このような現状を考えると、迅速に教育改革が行われることを期待しています。(男性,35歳)

○教育に競争原理の導入や管理強化で現在の諸問題を解決しようとする一部の動きに、大いに危機を覚えます。小・中学校での生徒指導・教科指導において大変な時間を割かなくてはならない現状をどれほど教育委員会はつかんでおられるのでしょうか。中学校では、部活動の時間もあり、熱心に取り組む教師ほど疲れが慢性化しています。学級定員を他県のように30人にすることや、部活動を生涯体育の一環として取り込めるような工夫は、この教育改革の取り組みに予定されているのでしょうか。(男性,49歳)